

平成24年度

目黒区学力調査と授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 平成23年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第3学年

平成24年7月
目黒区立第三中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	5 6 人	5 8 人	5 9 人
実施数	5 4 人	5 6 人	5 9 人
受検率	9 6 %	9 6 %	1 0 0 %

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科

2年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

3年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3) 実施日

平成24年4月12日（木）

Ⅱ 平成23年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証

(1) 成果

- ・言語活動を推進するために、可能な教科から振り返りシートを導入したことにより、文章を書くことに苦手意識をもっている生徒たちの意識も少しずつ変化が見られるようになってきたこと。
- ・人権尊重をテーマとした研修に取り組むことにより、人権に配慮した指導に努められ、生徒の人権意識も高められたこと。

(2) 課題

- ・学習の基盤である「ことば」の力をつけるように読書活動の推進をはじめ、全教科で「聴く・伝える・考える」といった言語活動を意識的に行っていくように努めてはいたが、すべての項目を平均的に取り上げることがなかなかできなかったこと。
- ・小グループによる日常的な授業研修を行ったが、回数も少なく定着するまでには至らなかったこと。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

指導方法の工夫	問題解決的な学習を重視し、自主的・自発的な学習を促していく。 すべての教科で振り返りシートを作成し、その日の授業の自己評価を行わせ、生徒の到達度や理解度の状態を毎時間確認し、個々の課題を把握した上で授業が展開できるようにする。
習熟を高めるための手だて	各教科、毎時間の授業の導入時に「今日の授業のめあて」を誰もがわかるように提示して、教え込む授業ではなく、生徒に学びとらせる授業を展開できるようにする。
指導体制	年間をとおして国語科では少人数授業、数学科では習熟度別授業及び少人数授業、英語科ではティームティーチングの授業を取り入れるて、個々の課題の把握に力を入れる。 放課後学習教室、定期考査前の土曜学習教室、夏季補習教室などで日常的にきめ細かな補習を継続して行う。参加をしてほしい生徒への声がけを強化していく。
評価の工夫	年間指導計画、年間評価計画に基づき、系統性・発展性ある授業を展開するとともに、指導と評価の一体化を図り、より一層精度の高い評価・評定を実現する。
校内研修の工夫	小グループによる日常的な授業研修を継続して取り組む。他の授業から謙虚に学び合うとともに、情報交換を行いながら日々の授業に生かす。

第三中学校 第1学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○「聞き取る力」を確実に身につけること。 ○正確な漢字・語句の知識の習得。	○「読むこと」の学習の中で意識的に聞き取りの時間を設け、できる限り個別に指導する。 ・少人数授業の特性を生かし、個々に聞き取りの内容を確認するなどきめ細かく指導する。 ○小学校の復習を徹底すると同時に、日常の言語活動と関連付ける指導を工夫する。 ・ノートに用例を多く書かせるなど、意欲的に学習にとりくめるように支援する。 ・放課後学習教室を利用し、習得が遅れがちな生徒への個別指導を充実させる。
社会	○日本の国土について、位置・気候に関する基本的な知識の習得。 ○天下統一と江戸幕府、国際連合のはたらきに関する知識の習得。	○資料活用能力の育成を図る。 地図帳「日本の気候とまわりの国々」、教科書「日本の範囲」の地図・写真等を活用し国土全体をとらえ、地図帳「日本の地形」・「日本の気候」、教科書の雨温図などを活用し、考え判断できる授業を展開する。 ○織田信長・豊臣秀吉の事業、国際連合のはたらきについて教科書・資料集の年表・写真などを活用し歴史における流れを現代と比較し、当時の特徴を考えさせ、知識の習得を図る指導を行う。 ※必要に応じてプリントの作成、ビデオなど視聴覚資料の提示。
数学	○数学的な見方考え方および活用能力。 ○数学的な表現・処理。	○言語活動の充実を図る。 ・特に一次方程式の文章問題で、問題の意図を説明させるなどをして言語活動を取り入れた授業の展開を工夫する。 ○数学的な表現・処理能力を高めるために基礎学力の定着を図る。 ・小テストをこまめに行い、正負の数の四則計算、文字式の計算の定着の度合いを把握する。 ・習熟度別授業のメリットを十分生かし、個に応じたきめ細かな指導に努める。
理科	○温度による体積変化や星座の動きなどの日常で見られる自然現象に注目すること。 ○自然現象や観察・実験で記録した内容から自分の考えをまとめ、表現する能力。	○温度授業で具体例を紹介するだけでなく、生徒の体験をまとめたり発表する場面を設ける。 ・水の温度による体積変化の体験と質量の考察を小グループで発表し、確認の実験計画に取り入れる。 ・季節の星座を中心に天文現象の話題を授業中に教師が提供したり、生徒の体験や疑問を取り上げる。 ○単元毎に個人や小グループで考えをまとめて発表したり、観察・実験計画に生かす活動を行う。 ・植物のからだのつくりとはたらき、力とそのはたらき、水溶液のモデル、化石で実施する。
英語	○英語を書くルールに従って正しく文字を書くこと。 ○英文を正確に書いて表現をすること。	○文字を正しく書く活動を増やし、定着させる。 ・授業中にワークシートを配布し、正しく文字が書けているか、記号（クエスチョンマーク・ピリオドなど）が付いているかを確認する。 ○自己表現や読解に必要な文法事項および語句の定着を図る。 ・文法事項のポイントを整理する課題、語句を書いて覚える練習、問題演習を行う課題を提出させ、定着度を確認する。

第三中学校 第2学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○書く力を身につけること。 ○正確な漢字・語句の知識の習得。	○教科書の文章に関連させて書く機会をふやす。 - 文章の読み取りを深める課題とともに、日常生活との関連に気付かせる課題を出して考えを書かせ、個別に指導する。 ○小学校の復習を徹底すると同時に、各単元の漢字・語句を確認する。 「漢字を確認しよう」「漢字」「言葉」を丁寧に書かせる。 - 漢字や語句の知識が文章の読解に欠かせないことを意識させ、家庭学習に結びつけるように指導する。
社会	○世界の造山帯、世界の気候の特色、日本のおもな自然災害に関する知識の習得。 ○飛鳥時代・平安良時代に関する知識の習得。	○資料活用能力の育成を図る。 地図帳「世界の造山帯と地震」・「世界のさまざまな気候」そして雨温図、また教科書・資料集の写真・地図・雨温図を活用し、事象を考え判断できる授業を展開する。 ○聖徳太子の事業である冠位十二階・十七条の憲法、藤原氏の摂関政治の特色について歴史的背景を意識させ、各時代の特徴を整理、知識の習得を図る指導を行う。 ※必要に応じてプリントの作成、ビデオなど視聴覚資料の提示。
数学	○数学的な見方考え方および活用能力。 ○数学的な表現・処理。	○言語活動の充実を図る。 - 特に連立方程式の文章問題で、問題の意図を説明させるなどをして言語活動を取り入れた授業の展開を工夫する。 ○数学的な表現・処理能力を高めるために基礎学力の定着を図る。 - 一年の学習内容の復習を取り入れながら授業をすすめる。 - 小テストをこまめに行い、一次方程式、連立方程式の計算能力の定着の度合いを把握する。 - 少人数授業のメリットを十分生かし、個に応じたきめ細かな指導に努める。
理科	○学習内容と日常生活で見られる現象や技術との関係をとらえること。 ○観察・実験の技能を正しく理解すること。 ○グラフや計算で結果を求めること。	○授業で具体例を紹介するだけでなく、生徒の体験をまとめたり発表する場面を設ける。 - 気象現象と社会生活 ○観察・実験目的に沿って、ふさわしい用具を揃え、観察・実験を適切に行う方法を事前に理解させておく。 - 観察・実験を行う前に班で方法の話し合いや手順の確認を行える時間を設定する。 - いくつかの観察・実験では、実験前に小テストや口頭試問を行い、生徒の理解度を確かめながら理解の不十分な部分をグループ毎に補ってから観察・実験を実施する。 ○グラフや計算を伴う単元毎に小テストを実施したり、実験後に描いたグラフの読み方を詳しく扱う。
英語	○語句を正確に並べかえて正しい文を作ったり、正確に疑問詞のはたらきを理解したりすること。 ○テーマにあわせて、まとまりのある英文を書くこと。	○文法事項や慣用表現に関する知識・理解の定着を図る。 - 疑問詞を使った疑問文を用いて、ペアで対話やQ&Aを行う。 - 英文作成の基礎となる基本的な語順や表現方法をワークシートを使って授業中に確認し、その定着度を確認する。 ○まとまりのある英文を書く指導を充実させる。 - あるテーマについてペアで会話を行った後、その内容について1文あたり5語以上で、英語3文以上書くことを習慣にする。 - 将来の夢についての自分の考えや気持ちを書く活動を設定し、スピーチを行う。

第三中学校 第3学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○漢字・語句・文法に関する知識の確かな習得。 ○多様なジャンルの説明的文章に触れ、読む力を高めること。	○1・2年の復習を徹底すると同時に「読むこと」の教材とも関連させ、正確な知識と日常に生かす力を身につけさせるように工夫する。 ・教科書「漢字を確認しよう」を用いた小テスト、各単元で語句の知識に関するまとめを行い、きめ細かく指導する。 ○説明的文章の様々な教材を活用し、内容に興味を持たせながら読む力を高める指導を工夫する。 ・教科書の関連教材を有効に利用し、論理の展開のしかたを理解させる指導を、少人数授業で丁寧に行う。
社会	○アメリカ合衆国の産業、日本の農業について資料の読み取り、知識の習得。 ○ヨーロッパ人との出会い、江戸時代の産業に関する知識の習得。	○資料活用能力の育成を図る。 地図帳「北アメリカ州の自然と生活」・「アメリカ合衆国・カナダの農業の分布」等の地図、教科書「アメリカ合衆国とカナダのおもな農業地域」の地図・グラフを活用し、事象を考え判断できる授業を展開する。 ○鉄砲・キリスト教の伝来について当時の日本・世界の状況を考えつとらえ、江戸時代の産業については備中ぐわなどの農業の進歩、また三都の発展などを中心に歴史における流れを現代と比較(つなげ)し、当時の特徴を考えさせ、知識の習得を図る指導を行う。 ※必要に応じてプリントの作成、ビデオなど視聴覚資料の提示。
数学	○数学的な見方考え方および活用能力。 ○数学的な知識・理解。	○言語活動の充実を図る。 ・特に二次方程式の文章問題で、問題の意図を説明させるなどをして言語活動を取り入れた授業の展開を工夫する。 ○基礎学力の定着を図る。 ・一年、二年の学習内容の知識・理解に関わる事柄の復習を授業の中で取り入れる。 ・小テストをこまめに行い、知識・理解に関わる事柄の定着の度合いを把握する。 ・少人数授業のメリットを十分生かし、個に応じたきめ細かな指導に努める。
理科	○学習内容と日常生活で見られる現象や技術との関係をとらえること。 ○観察・実験の技能を正しく理解すること。 ○自然現象についての知識・理解のための基本的語句が使えること。	○授業で具体例を紹介するだけでなく、生徒の体験をまとめたり発表する場面を設ける。 ・家電製品の消費電力やエネルギーの移り変わり ・太陽の動きと社会生活 ○観察・実験目的に応じた用具を選択し、実行できる計画を立てていることを確認する。 ・観察・実験を行う前に班で方法の話し合いや手順の確認を行える時間を設定する。 ・いくつかの観察・実験では、実施前に小テストや口頭試問を行い、生徒の理解度を確かめながら不十分な部分をグループ毎に補ってから観察・実験を実施する。 ○2週間に1回は復習の時間を設け、最近学習した内容の中から基本的な事柄を確認させる。
英語	○あるテーマについて、関連つけてまとまりのある英文を書くこと。 ○言語の知識や文法事項などを、応用して活用すること。	○文法事項や知識の定着を図り、自己表現の場面を設定する。 ・学校行事や体験学習をとおして、経験したことや感じたことを英語5語以上で3文から5文で書けるように、既習の語彙を繰り返し表現させる活動を行っていく。 ○新出語句や慣用表現などの知識を活用した言語活動を行う。 ・定期的に1分間Q&Aチャットを行い、既習の内容を復習しながら、2文以上で応答できる自己表現練習をする。 ・USE Readなどのまとまった英文を読み、その内容理解を要約したり、異なった表現に書き換えるなどして語彙力を強化させる。